

2022年度 教習所企画「安全運転講習」 報告書

企画担当者：小林誠一郎（横浜国立大学）

1 背景・概要

本企画は元来、コロナ禍でオンサイトでの活動が難しくなった国際交流活動をオンラインで行うために企画されたものであったが、有意義な海外学生とのオンライン交流が難しかったため、今後新たな学自研イベントとしての継続を視野に、教習所安全運転講習を行った。

本企画では「安全運転」をキーワードに、事故を起こさないドライバーに必要なポイントや運転マナーを知ること、適性検査や運転の癖のチェックを通して事故を起こしやすい運転を是正することを目的として5つのプログラムを行った。

初の教習所企画としての観点、またポストコロナ禍の対面企画実施の基準としての観点から報告をする。

2 実施内容

場所：コヤマドライビングスクール二子玉川校

日時：12月20日（火）9:30~14:00

参加者：学生4名

- ・小林誠一郎（横浜国立大学）
- ・伊藤大貴（日本大学）
- ・榎本卓也（日本大学）
- ・野原涼平（ものづくり大学）

引率理事：大蘆嘉郎，保田正義

○1 限目(9:30~10:20)：座学

適性検査や安全運転意識・マナーの講義を実施。改めて運転中に意識すべきことが

喚起された。また「安全」というテーマのもと、道路交通法で規定された初心運転者講習で用いられる性格診断や事故件数や実態に対しての解説を受け、自分の性格や事故の現状を知る良い機会となった。



図1 安全運転意識の講義の様子

○2 限目(10:30~11:20)：普通車実習

教習所の所内コースで実技運転を実施。実施後、インストラクターからのチェックシートによるフィードバックがあり、意識や技術に加えて運転の危険な癖を指摘していただいた。自分の運転を見直すことができ、ベストな運転行動に対する自分のスキルを確認する上でこれ以上ないものを得られた。



図2 普通車の運転実習の様子

○3 限目(11:30~12:20)：中型車の同乗研修

前半は所内にて参加者による中型車の内輪差の実測、また死角や後輪後方のオーバーハングの特性を体験。後半は路上で同乗体験を実施。トラックからの他車の見え方を確認し、右左折時には、コーナーの内側、外側ともに普通車よりも注意を払わなければならないことが確認できた。事前の深視力検査が大型車の運転に重要な意味を持つことを実車体験で感じることができた。



図3 内輪差の実測の様子

○4 限目(12:30~13:20)：教習所の変化

今回、国際交流検討のキーであった日本の教習所のカリキュラムの変化や体勢について話を伺った。教習所には指導員・検定員・管理者が必要であること、昔は教習が4段階であったこと、14種もの免許をとるインストラクターの苦労など普段聞く機会のない興味深い話を聞くことができた。また自動運転が進歩しても運転に必要な法令や技術、判断力を養う教習が必要となるのは変わらないだろう、といった技術革新に関わる教習所目線の見解も印象深かった。

○番外編(13:30~14:00)：牽引車の特性体験

牽引車の車庫入れ、旋回の動作を間近で

見てその挙動を体験。3限の中型車の内容と合わせて、牽引車の操作は複雑となるが、中型に比べ旋回半径が小さくなるなどのメリットも体感でき、中型と牽引の挙動の違いについても理解を深めることができた。またトレーラーがすれすれで車庫入れや旋回する様子に参加者も思わず感嘆の声を漏らした。



図4 牽引車が旋回する様子

3 アンケート分析

企画実施後のレビューとして、目的が達成度や学生の期待に応えられたかの調査に加え、コロナ対策の基準を得るため参加学生4名にアンケート調査を行った。各カリキュラムの満足度を表1のように4段階で調査を行った。

表1 満足度アンケート結果

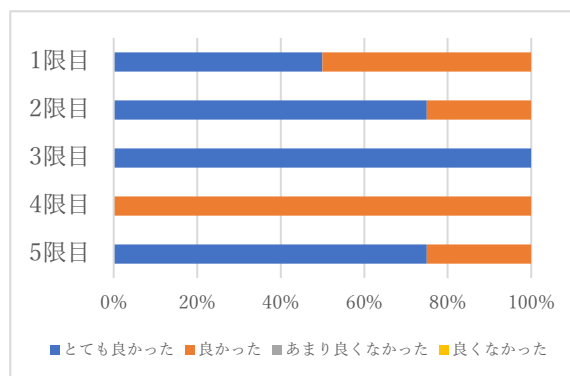
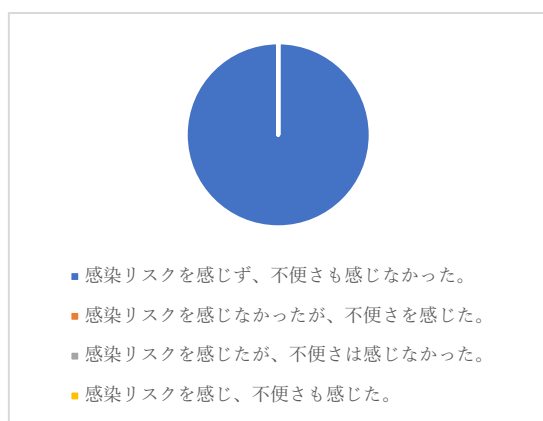


表 1 より、全体的に好評であったと言える。特に中型車の同乗研修は 4 人全員が最高評価であった。

また内容について学生からは「自分の運転性能や適正が改めて確認でき、今後安全運転する上でどう気をつけていけばいいのか、再認識する事ができた。」などの意見が得られたため、目的も達成できたと言える。

同様にコロナ対策に関しても、対策が万全であったか、不便ではなかったか調査を行った。結果を表 2 に示す。

表 2 コロナ対策調査



今回の感染対策は教室内のアクリル板や手指のアルコール消毒が主であったが、表 2 より参加学生は感染リスクを感じず、かつ不便さも感じていなかったと言える。一方で、アンケートに見られた体験型のイベントに人気集中したことに関連して、改善点としてハンドルの消毒や参加者が多い場合はもっと距離を取ったりした方が良い、

と言った意見がみられたため今後の対面企画で参考にされたい。

4 所感

本企画を国際交流のオンラインイベントの可能性として発案してから約 3 年の間、海外学生とオンラインでの会議を行いながら企画の熟成を進めたが、結果として国際交流企画として実施することはできなかった。今後、日本と海外の学生が相互理解のもと企画提案を行うことで、両者が興味を持てる企画が生まれることを期待したい。

また、今回はコヤマドライビングスクール様の多大なるご協力のもと、安全運転講習という形で実施することができたのは大きな成果である。一方で、早期の段階から相手先に対し目的や具体的な要望が説明できれば、スムーズな企画熟成が可能となることが経験的にわかったので、今後の活動に活かしたい。

さらに、アンケートでは満足度の高い回答が得られ、フレッシュな企画は参加する学生が得られる物も多いと感じた。新しい企画の重要性が理解できた。

5 謝辞

最後に、本企画へのご協力を賜りましたコヤマドライビングスクールの皆様、(公社)自動車技術会関東支部の皆様方に厚く御礼申し上げます。